

「兄は税金泥棒ですか？」

京丹後市立丹後中学校 3 年  
二村 かな

「自衛隊は税金泥棒だ」ー。その言葉を目にした時は私は怒りよりも、深い悲しみを感  
じました。なぜなら私の兄が海上自衛隊として働いているからです。

兄は高校卒業と同時に家を出て、今は離れた基地で生活しています。私にとって兄は、  
いつも優しく家族思いの頼れる兄です。私の大好きな温泉に連れて行ってくれたり、遊  
んでくれたり。そんな兄が、今は国の安全のために日々任務をこなしていることを、私は  
誇りに思っています。海上自衛隊の任務は過酷です。年間 180 日以上を船の上で過ごす  
隊員も多く天候に関係なく訓練や哨戒活動にあたります。兄も何度も長期出航に出て、数  
ヶ月家に帰れないことがあります。そんな生活は決して楽ではないけれど、兄は「今の仕  
事がやりがいだ」と淡々と話してくれます。その言葉の奥には、大きな責任と覚悟がある  
ことを私は知っています。

令和 6 年度、日本の防衛予算は約 6 兆 8000 億円。金額だけを見ると「無駄だ」と感じる  
人がいると思います。しかし、このお金は単に兵器を買うためではありません。例えば、  
令和 6 年度の能登半島地震では、延べ約 3 万人の自衛隊が派遣され、救助や物資の輸送、  
避難所の支援にあたりました。私の兄も帰省中だったにも関わらず物資を運ぶため地震か  
ら 30 分も経たないうちに急いで基地に帰って行きました。災害時、真っ先に駆けつける  
のが自衛隊です。見えないところで多くの命を支えているのです。

私たちが日々安心して暮らせるのは、兄のような人たちの努力、そして努力を支える税  
金があるからです。道路や学校のように目に見える形ではなくても、国を支える力は確か  
に存在していて、それは簡単に「無駄」と言えるものではありません。

私は兄のことが大好きです。なかなか会うことは出来ないけど、連絡を取ったり、帰っ  
てきてくれる時すごく心が舞い上がります。だからこそ、兄の働きや、それを支えている  
税金が「泥棒」と呼ばれるのは、悲しくて悔しくて仕方ありません。

税金は、誰かの努力や命を支えている。そう想像できる心を私はこの先も持ち続けてい  
きたい。これから先、税について学ぶとき、ただ金額や数字を見るのではなく、その先に  
いる『だれか』の姿を思い浮かべられる人でありたい。また「税金泥棒」なんて言葉が過  
去のものになる未来を、みんなで迎えたい。あなたはその未来をどう描きますか？